

# S.G. Report

No.8

## 『済々エコ若ラボⅢ』

### テーマ別講演会

●日 時： 平成26年11月4日（火）⑥⑦限目

●参加者： 本校一学年および職員

●講演者： 以下のとおり（敬称略）

1	<p>宮北 隆志（熊本学園大学社会福祉学部）  <b>『水俣病の現在と水俣学』</b>          水俣学研究の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「失敗の教訓」を将来に活かす学問としての水俣学。</li> <li>・一人ひとりの生き方と、現在の社会・経済システムのあり方を問い合わせ直す学問である。</li> <li>・自分たちが自然界の一部であるという意識を持つて自然界と向き合うことが大切である。</li> </ul>	
2	<p>藤本 延啓（熊本学園大学）  <b>『暮らしと廃棄物』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モノの一生            石油→生産→消費→廃棄→処理→埋め立て            ごみ問題の多くは私たちの暮らしから見えていない。。。だから「分別」「出し方」が大切。            いかに減らすか、いかに暮らすか。</li> </ul>	
3	<p>園田 敬子／藤本 紀子（環境ネットワークくまもと事務局）  <b>『持続可能な地域社会の実現に向けたNPOの取り組み』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人環境ネットワークくまもとの紹介            非営利での社会貢献活動や慈善活動する市民団体</li> <li>・NPO 法人環境ネットワークくまもとの活動            アースウィークくまもと 2013 等</li> </ul>	
4	<p>井上 智（環境ネットワークくまもと理事／東京エレクトロン九州）  <b>『熊本の地下水』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本市とその周辺の97万人の飲料水は100%地下水（世界に例がない）しかし！水量が10年で20%減。このままだと水が枯渇する恐れがある…            →①地域・環境の循環を意識した生活            ②商品を選ぶときにエコを始める            ③身近なところから行動を始めよう！！</li> </ul>	
5	<p>澤 克彦（九州環境パートナーシップオフィス）  <b>『ワールドカフェでエコを考えよう！』</b>          ワークショップ = プレーンストーミング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①結論を出さない ②質より量 ③短く書く</li> <li>・思いつき、ひらめきで意見を出し合うことが良いアイディアに繋がる。ワークショップの場数を踏み、どんなテーマであれ正しく広くコミュニケーションを取っていこう!!</li> </ul>	

6	<p>外川 健一 (熊本大学法学部)  <b>『環境問題と世界史』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代の文明が滅びた原因には環境問題があったという見方がある。</li> <li>・現在の日本は人類史上でも類を見ないくらい良い暮らしをしている。これを維持するために、歴史から学ぶこと、同じ過ちを繰り返さないよう市民レベルで常に環境を意識していくことではないだろうか。</li> </ul>	
7	<p>堤 裕昭 (熊本県立大学環境共生学部海洋生態学)  <b>『マイクロバブルが変える水環境』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロバブルという技術は産業（養殖）や、それに伴う環境問題の両者に非常に有効である。</li> <li>・良い技術、アイディアは様々な問題を解決でき、高い技術をもつ日本に英語が加われば、世界と共に様々な技術を生み出し、問題解決できるようになる。</li> </ul>	
8	<p>内山 隆 (NPO 法人九州バイオマスフォーラム)  <b>『東京から阿蘇へ脱競争 阿蘇からはじめる循環型文明』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスとは「身近で資源にやさしい暮らし」、生き物が基本である。バイオマスエネルギーを使って自分たちの生活をまかぬ。</li> <li>・資源があるうちに燃料を灯油から移行していかなければならない。目先のことではなく 100 年 200 年先を考えることが大切だ。</li> </ul>	
9	<p>濱田 孝正 (NPO 法人美里 NPO ホールディングス)  <b>『地域の循環、楽しみ・歩きながら地域を知り、発信する「フットパス」に取り組む』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急激な人口減少、農地の荒廃などを食い止めるため、交流人口を増やし、現状と地域のよさを知ってもらいたい  → 今ある石橋、棚田（農村景観）を活かした取り組み。</li> <li>・歩けば見えてくる景観</li> <li>・地域の人が生業の中で維持してきた景観  → これらの景観を活かす『フットパス』</li> <li>→ 歩く文化を創造し、地域を元気に!!</li> </ul>	
10	<p>張 代洲 (熊本県立大学環境共生学部大気環境学)  <b>『PM2.5 は何 - 黄砂、微粒子、微生物 - 』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PM2.5 とは?  空気中にあるスス粒子、硫酸アンモニア、バクテリアなどの 2.5 マイクロメートル以下の細かな浮遊粒子のこと。  国内だけでなく中国でも大気中の物質の観測中である。</li> </ul>	
11	<p>石橋 康弘 (熊本県立大学環境共生学部資源循環化学)  <b>『バイオマス利活用技術』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会に向けた取り組み</li> <li>・バイオマス利活用技術</li> <li>・ライフサイクルアセスメント</li> <li>・メタン発酵プロセス</li> </ul>	
12	<p>松永 信博 (九州大学工学部エネルギー科学科環境流体システム学)  <b>『沿岸海域環境の保全 - 有明海の環境異変を対象として - 』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学する=問題に対して、仮説を立て、実験と観察によって結論を出す。失敗の場合はもう一度仮説を立て直す。  * 適切な仮説を立てることが正解への近道となる!!</li> </ul>	

